

第2回石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事録

■日 時 平成27年7月18日(土) 午前10時~12時

■会 場 庁議室

■出席者(欠席者) 別紙のとおり

■会議内容

1. 会議開催について

- ・委員数19名に対して15名が出席しており会議は成立。

2. 会長挨拶

3. 報告

(1) 第1回石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議における確認・提案事項について

- ・特になし

(2) 石巻市人口ビジョンについて

<質疑>

【委員】

資料5、国の「長期ビジョン」「総合戦略」の全体像であるが、国の施策は政権が代わったり、政策の変更等により、長期的に継続するとは限らない。石巻市のビジョンは長期的にブレのない根本的な施策を盛り込んだビジョンとすべきである。

また、人口は今後減少を続け、このような状況の中でどのように生きていくのか、これまでの考え方を変えていくことが重要である。人口減少により様々な影響があるが、推進会議として、一面ポジティブに、一面ディフェンシブに考える必要があるのではないか。

【事務局】

国では2060年を目標とした長期ビジョンとしており、石巻市においても2060年を目標としてブレのない施策展開を考えていきたい。

また今後、人口減少はやむを得ないとして、いかにその影響を小さくしていくか、時代に合った施策展開を考えていきたい。

【市長】

市としては、先の震災への対応が重要であり、国の総合戦略にそのまま沿ったものとしていくつもりはない。例えば地域ごとの包括ケアシステムなど、地域を支える核を備えておくことが重要と考えており、それが震災で学んだ教訓である。戦略に限った話ではないが、国の方針はそれとして、過度にとらわれない石巻市独自の戦略を示して行きたい。

【会長】

人口減少の影響はショッキングなデータではあるが、決して悲観する必要はない。これを受け止めたうえで、地方で生きる価値や楽しみなど、石巻から発信していきたい。ネガティブでも超ポジティブでもいけない。きちんとデータとして受け止め

るべきは受け止めて、処方箋を考えていくべきである。

【委員】

データの結果は憂うべきものであり、我々の世代は子ども世代に対して大きな責任を負っているのだから、人口減少に対しては危機感を持って取り組まなければいけない。この5年間は今後に大きな影響を与える5年であり、何をしていくべきか考えていかなければいけない。

【会長】

5年間は、将来の石巻のことを考えるととても短い期間であり、ホップステップジャンプの「ホ」程度にしかない。しかし、今後の長期の取り組みのスタートとしての5年と考えると、非常に大切な期間である。この期間において、KPI 等を含め、PDCAにより成果を点検しながら進め、さらに次の5年に繋がるような展開を考えていくことが必要になる。

4. 議事

(1) 石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る基本目標について

(2) 総合戦略に係る基本目標について意見交換

【委員】

人口減少は以前からの現象であり、これまで様々な施策も講じていたのではないかと。以前の施策を振り返ってみて、その効果を検証してほしい。

基本目標2では6次産業化について記述があるが、青年部では6次産業化は難しいという意見が多い。第1次産業の人がやってもうまく運ぶのは難しい。第1次産業と第3次産業のマッチングが成功し易いのではないかと。そこに第2次産業の加工業を組み込むことも考えられる。

基本目標2では、農林水産業が中心になっているが、石巻には農林水産業以外にも製造業をはじめ色々ある。これらの農林水産業以外の産業部門も表記すべきではないかと。

出生率の増加が早期に起きることで人口減少は食い止められると言われている。基本目標4に結婚出産子育てがあるのは、施策の重要性からすると違和感がある。2番目くらいに表記すべきではないかと。記述量も他の基本目標と比べて少ない。

【事務局】

これまでの人口減少対策の効果を検証・分析する必要性はある。それを踏まえた総合戦略の検討が必要であると認識している。

1次産業のみでなく他の産業に関しても必要性は認識しているので今後検討していきたい。

基本目標4は優先すべき目標として認識している。記載の順番が優先性を表しているものではなく、それぞれの目標は対等の施策と考えている。

【会長】

これまでの人口減少対策の効果については、可能な範囲でよいので次回に示して欲

しい。

基本目標4に記述量が少ないのは、今時点では具体的な意見が上げづらい項目ということだと思う。逆にみなさんの意見がぜひ必要な項目であるので、意見を出してほしい。

【委員】

基本目標3の絆と協働は重要な項目であると感じている。震災後、多くのボランティアが訪れ、支援していただいた。支援した人で定住した人もおり、絆が生まれてまちなかの創生に貢献してくれている。

取り組みの中の移住コンシェルジュ事業は、石巻市に訪れた方にとって望ましい制度であり、是非実現して欲しい。

地域包括ケアについては重要であるが、さらに、仮設住宅から公営住宅への転居が今後進む中、新しい地域コミュニティをつくっていくことが重要となる。その実現を、コーディネートしてくれる人材の育成を図って欲しい。

緊急雇用創出事業は対象期間が限定されているので将来に不安があり、地方創生の取り組みにはそぐわないのではないかと感じる。経済的安定は非常に重要なことである。安定的な雇用を確保するためには、商工業者や農業従事者が職業指導するなど、若い人にキャリアを積ませる・後継者として育てるといったような人材育成の取り組みを進めることが望ましい。

【事務局】

まちなかコンシェルジュ事業は来年度から実施する予定である。新しいコミュニティ形成も重要なことと認識している。働くということに対する意識を変えるような施策の展開を考えていきたい。

【委員】

2040年には自分の子供が30歳代の働き盛りになるのに、そのときに生活サービスが低下・地域が衰退しては困ってしまう。今のうちに私たちが頑張らなければという思いでいる。

震災から4年を経て子育て支援など充実してきた感じがする。そのため、石巻市は子育てがし易いという声を、転勤されてきた人からも聞いている。それはこの期間の取り組みがあってこそであり、地方創生の5年間も重要な期間となる。

切れ目ない支援として、海外の子育て世代包括支援センターの事例をあげていたが、ぜひここでも取り組んでほしい。また保育の話もいれていきたい。20～40歳代の主婦層の声がとても大切であり、女性の声を活かした取り組みがあってよいと思う。

また、石巻市では待機児童が何人いるのか教えていただきたい。

【会長】

長野県の下條村では、人口が増加し、出生率も向上しているという例がある。よその自治体で実施している良い所はぜひ積極的に取り組んでほしい。

【事務局】

待機児童は30名ほどと認識しています。

子育て支援策は重要な施策と認識しており、今後5年間、さらに次の5年に繋がるようにして行きたい。

【委員】

待機児童は30名とのことだが、潜在的なものまで含めればより多いと思う。把握できる方法があれば検討してみしてほしい。

【委員】

最近、野菜農家は、ハウス栽培の助成など様々な支援により農業がやり易くなったが、水稲農家は危機感を持っている。蛇田地区では後継者は5人程度、農業従事者は高齢者が多くなっており、10年後、耕作できる人がいるのかどうかわからない。

水稲農家は米価が下がり補助金なしでは営農できない状況であり、それが背景となって後継者がいない状況となっている。

石巻市は先の大震災により日本全国はもとより、世界にその知名度が上がっている。これを活用して石巻市の農産物や水産加工品を世界に情報発信すべきである。

【会長】

農業の後継者問題は「ひと・まち・しごと」の面で重要な課題である。水産加工関連は比較的情報発信されているが、農業も含めて情報発信することが必要である。

【事務局】

水稲農家の後継者問題については、市の担当部署やJAと協議をしながら取り組んでいきたい。

【委員】

石巻北高校の学生さん達との交流の中で、高校生たちは地元企業への就職や農業従事の希望もあるが、それらの企業や団体とのマッチングがなく、ハローワーク頼みとなっているという話があった。でも実際、農家はハローワークを通さないで、すれ違いが生じている。

桜坂高校でも、地元での就職を希望する学生が多いが、先生の紹介するのは医療介護や看護、事務職であり、子どもたちは就職先を狭くとらえてしまっており、学生達とのミスマッチがある。ハローワークだけでなく、企業や行政が就職斡旋に係る必要があるのではないか。

【会長】

今まで農業も地縁・血縁だけで受け継いできたが、別の筋からアプローチして若い人を集めるといったことをしてもよいかもしれない。移住に関する対応だけでなく、農業や様々な部門の仕事を紹介する就職のコンシェルジュが必要ではないか。

【委員】

石巻市に転入されてくる方々の理由の把握は可能か。その理由に石巻市の魅力となるきっかけがあるのではないか。

当地は魚・酒・肉・米とおいしい食材が揃っているが提供する場所が少ないという意見をよく耳にする。

【事務局】

最近の転入者は、震災の関連で女川町からの流入が多い。その他についてはデータが手元にないので後日報告する。

【委員】

例を挙げると北海道での移転希望者の最大の理由として自然環境をあげる人が多い。石巻でも広く知られていない特徴的な場所があるのではないかと。石巻市でも外からの方々を誘致するために石巻市の魅力的な場所を今後のまちづくりに活用することも検討していただきたい。

【副会長】

この会議の間では、色々な情報共有ができることがまずありがたいと感じている。施策や事業についてよくわからないという人もいるが、石巻市の総合計画にも様々な施策が掲載されており参考になるのではないかと。思う。

【委員】

労働界の意見としては、震災復興計画に基づいてまちづくりを進め、雇用を確保し、定住者を増やしたい。働き続けられる環境を確保することが重要であり、石巻は働きやすい場所であるという状況を作り上げていくことが大事ではないか。

【会長】

定住人口を増やすには居住環境だけでなく、労働環境も重要な要素である。

【事務局】

労働環境についてのご指摘の事項は重要なことであるので、今後検討していきたい。

【委員】

河南地区を代表して現状を述べたいと思う。農業の後継者の話があったが、河南でも酪農農家は後継者がなく廃業する農家もある。休耕田も見られる。休耕田は、高校生に開放して利用してもらうようなシステムがあればよいのではないかと。空き家利用も斡旋しているが、トイレが田舎っぽいなどの問題から利活用が進んでいない。

【会長】

河南は震災後、人口が増えていると聞いているが、農地は手入れ不足の状態が続いている。農地は学校と提携し学生農園としたり、都心の人の貸農園等として活用できればよいのではないかと。

【市長】

空き家活用事業や農業の担い手支援事業は既に始めている。ニーズのマッチングや空き家のリフォームなどを行っている。

【会長】

各々がどのような取り組みをしているか意外としらない。ぜひそのような情報は共有したい。

【委員】

雄勝町では他の地域から来られたアルバイト漁師が多いが、冬場は仕事がなく他に引っ越してしまう。漁業権が得られれば独立していけるという話も伺っている。

雄勝では人口減少が著しく、人は少ない。しかしそんな中でも、例えば地元の古老の意見を聞いたりして、みんなで知恵をしぼって頑張っている。

困っているのは、震災の復興の過程で、買い取られた土地とそうでない土地が混在しており、どのように利用できるのかが課題となっている。

また交流人口を増やすには、修学旅行や体験ツアー、防災ツアーなどを企画してはどうか。神戸の震災の時も7年たってそのような交流も増えたと聞いている。

【会長】

教育的な旅行は民間旅行者などが積極的に行っており、今後も力を入れていく部分と考えている。また漁業については、できれば入れ込んでいただきたい。他地域からきたアルバイト漁師を、後継者として育てることもあり得るのではないか。

【事務局】

漁業については、漁業権までは至っていないが、担い手育成事業センターを立ち上げたところであり、ぜひ活用していただきたいと思います。

買収地と未買収地の集約化は現行法では難しい状況にある。

【会長】

漁業権は重要である。後継者がいない場合は漁協へ返却される仕組みとなっているそうだが、新しい担い手に配分されるようになることが望ましい。次回情報提供をいただきたい。

【委員】

石巻駅は市の玄関口・シンボルであるが、夜になると暗く華やかさが無い。駅周辺を明るくするとともにマンガをアピールした駅前づくりをして欲しい。公園などにキャラクター像などがあれば子供はきっと喜ぶと思う。

【会長】

マンガのモニュメントなどは、駅前の区画整理事業や再開発事業によるまちづくりの中で導入されていくものと考えられる。

本日提案された総合戦略に対しては大きな指摘がなかった。次回は具体的な数値目標が提示されるということで本日はここで閉会としたいと思います。以上で事務局にお返しします。

【事務局】

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。以上をもちまして終了とさせていただきます。ありがとうございました。

以上

石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員名簿

(平成27年5月21日現在)

No	氏名	所属	備考
1	安住栄一	牡鹿地区住民代表	出席
2	阿部紀代子	コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会	出席
3	阿部都	いしのまき農業協同組合	欠席
4	荒木裕美	特定非営利活動法人ベビースマイル石巻	出席
5	大浪茂	河北地区住民代表	出席
6	木村美保子	いしのまきNPOセンター	出席
7	後藤宗徳	石巻観光協会	出席
8	西條拓也	いしのまき農業協同組合	出席
9	佐藤清子	河南地区住民代表	出席
10	佐藤尚美	北上地区住民代表	欠席
11	品野光一郎	宮城県漁業協同組合	欠席
12	庄真岐	石巻専修大学	欠席
13	大黒雅弘	日本労働組合総連合会宮城県連合会石巻地域協議会	出席
14	高橋たけし	七十七銀行石巻支店（長谷川明氏 代理）	出席
15	高橋真由美	雄勝地区住民代表	出席
16	中川尚仙	石巻商工会議所	出席
17	永澤貞代	桃生地区住民代表	出席
18	芳賀信幸	石巻市地域包括ケア推進協議会	出席
19	三浦トキエ	石巻市地域婦人団体連絡協議会	出席

(氏名の五十音順、敬称略)